

「派遣海賊対処行動航空隊（第52次要員）出国行事」

高田群司令以下、隊員及び家族、自衛隊協力団体の皆様で見送り



発行：沖 縄 二 火 会
(海上自衛隊第5航空群支援団体)
印刷：新 栄 印 刷

令和5年4月25日(火)、第5航空群所属のP-3C哨戒機1機と派遣海賊対処行動航空隊、第52次要員（指揮官出口2佐以下、約60名）がアフリカのソマリア沖・アデン湾における海賊行為に対処するため、那覇航空基地を出発しました。

那覇航空基地からの海賊対処行動への派遣は、今回で、20回目となります。

那覇航空基地で行われた出国行事では、第5航空群隊員をはじめ、自衛隊協力団体の皆様及び派遣隊員のご家族の方々が見守る中、出口2佐が第5航空群司令に対して「隊員の健康管理に注意を払

いつつ、日本国民及び国際社会の期待に応えるべく、任務を遂行して参ります。」と出国報告を行いました。

第5航空群司令が代読した、自衛艦隊司令官（海将齊藤聡）からの訓示では、訓示の中で「各人が自らの仕事に誠実に取り組み、任務の完遂にまい進してもらいたい。」と述べられており、出国する隊員を激励しました。

また、参加された自衛隊協力団体の皆様及び派遣隊員のご家族の方々に対しても「平素から海上自衛隊に対するご理解とご協力に心から感謝申し上げます。」と感謝の言葉が述べられました。

出国行事の後は、派遣海賊

対処行動航空隊第52次要員の無事の帰国を祈りつつ、飛び立つP-3Cを皆で見送りました。



派遣海賊対処行動航空隊
第52次要員への激励品

自衛隊協力団体（沖縄二火会、沖縄県隊友会、沖縄県自衛隊家族会）から第52次要員に対し、激励品が贈呈されました。
これに対し、現地（ジブチ）の第52次要員からは、お礼状と写真が送られてきました。



「沖縄二火会 佐久本会長」



「沖縄県隊友会 平田会長」



「沖縄県自衛隊家族会 古門会長」



「第52次要員からのお礼」

「自衛隊入隊予定者激励会」

令和5年3月4日（土）、糸満市の「シャボン玉石けんくくる糸満」で自衛隊協力団体及び沖縄地方協力本部の共催により令和5年度自衛隊入隊予定者に対する激励会が実施されました。

激励会では、入隊予定者82名に対し、来賓の方々からのお祝いの言葉や記念品が送られました。

先輩隊員代表として、海上自衛隊第5航空群那覇航空基地隊の内間1士がスピーチを行い、教育隊でのエピソードを語るとともに、安心して入隊するように激励の言葉を贈りました。また、第5整備補給隊の鍋田1士は、ビデオメッセージで、航空機用のエンジン点検や航空機の誘導に携わっていることを語り、一緒に頑張ろうとのメッセージを贈りました。

入隊予定者の代表は「不安は感じておりますが、大きな希望も抱いております。将来皆様に恩返しできるよう精進してまいります。」と決意の言葉を力強く語りました。



自衛隊採用予定者激励会



第5航空群「音楽の夕べ」を開催

令和5年1月22日(日)、レンガ色が特徴的な豊見城市立中央公民館において、海上自衛隊第5航空群は、「音楽の夕べ」を3年振りに開催しました。

オープニングセレモニーの後、海上自衛隊佐世保音楽隊隊長(高野1尉)率いる音楽隊隊員の迫力ある「鷲が舞うところ」の演奏が始まり、ホールに管楽器の音色が響き渡りました。

その後も、趣向を凝らした様々な曲が演奏され、その中でも、地元沖縄に馴染みのある曲で「涙そうそう」や「片手に三線を」が演奏されると、会場は、一層大きく盛り上がりました。

最後に、「バリー・マニロウ」の「コパカパーナ」が演奏されると、軽快なリズムがホールに響き渡り、来場された方の中には踊りだす方もおられました。3年ぶりの「音楽の夕べ」を皆様と楽しむことができ、感慨深い一日となりました。



『沖縄の子供達に雪をプレゼント』

令和5年2月14日(火)から16日(木)にかけて、第5航空群では、沖縄本島及び宮古島の学校等の児童及び生徒に対し、「雪のプレゼント」を行いました。

この「雪のプレゼント」は、雪の降らない沖縄県の雪を知らない子供達に、本物の雪を「見る」「触る」という体験を通じて豊かな感性を育ててもらいたいという願いと、海上自衛隊に対する認識と理解をより一層深めてもらいたいということを目的として、平成7年から令和2年までの25年間継続して実施されているものです。

令和3年からはコロナ禍の影響により中止されています。



初めての雪にはしゃぐ
「すくすくこども園」園児

たが、今年は、3年ぶり(離島は4年ぶり)に実施されました。プレゼントの雪は、青森県八戸市に所在する海上自衛隊第2航空群の支援を得て採取され、那覇市まで輸送されました。

なお、輸送された雪は、約800kgに上ります。

那覇市の「はぐくみ児童クラブ」、うるま市の「すくすくこども園」及び宮古島の「伊良部小学校」には雪を、残念ながら雪をプレゼントできなかった石垣市の「石垣第2中学校」には、砕氷艦「しらせ」が採取した、南極の氷がプレゼントされました。

雪の採取場である、青森県の八甲田山は、氷点下の寒さであるためサラサラとした粉のような雪であり、本物の雪に触れた子供達は、その冷たさと珍しさに最初は少し戸惑った様子でしたが、あっという間に雪の感触にも慣れ、雪をかけ合ったり、雪だるまを作ったりと大はしゃぎでした。

雪遊びが一段落したところで、子供達から隊員に対し、元気な声でお礼が述べられるとともに、記念の色紙が贈呈されました。参加した隊員も子供達の笑顔にとっても癒されています。



「すくすくこども園」園児からのお礼の色紙



はぐくみ児童クラブの皆さんとの記念写真

海軍戦没者慰霊祭

日露戦争での日本海海戦118周年にあたる令和5年5月27日(海軍記念日として制定されたが戦後に廃止)、沖縄県豊見城市の「海軍戦没者慰霊之塔」において「第61回海軍戦没者慰霊祭」が一般社団法人沖縄海友会主催により執り行われました。



沖縄海友会 門馬会長 (祭文奉納)

第5航空群から艦旗の掲揚・降下、ラッパ吹奏、儀仗隊による弔銃発射等について隊員が派出され、同行の支援が行われました。当日は、梅雨空の下、沖縄海友会会長 門馬 規雄



第5航空群司令 高田将補 (献花)

氏のほか、大田實海軍少将の御三男 落合 峻氏をはじめとする御遺族や、旧海軍出身者と海自OBからなる海友会会員、陸・海・空自衛隊、沖縄地方協力本部の各指揮官、先任伍長等が参列し、献花、黙祷等により戦没者に哀悼の誠が捧げられるとともに、恒久平和が祈念されました。

門馬会長は祭文の中で、海軍沖縄方面根拠地隊司令官大田實少将の、沖縄県民に対する憂えに思いを致され「沖縄県民斯く戦えり県

民に対し後世特別のご高配を賜らんことを」と結ばれた700字にのぼる海軍次官宛ての電文は、正に「歴史の証言」であり、戦争の悲惨さを切実に訴えておられ、恒久平和への祈りと誓いを新たにされるものであります。」と述べられるとともに、「本年は沖縄の祖国復帰51年となりますが、今もここ沖縄は、日本の外交及び防衛上の焦点となっております。特に、昨今の世界情勢を見ますと国防の重要性は誰もが認めるもので現実性を増しております。日々緊張が高なる中であって、我

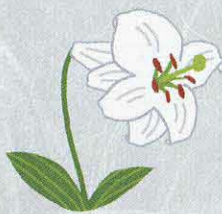


「儀仗隊」

が国の防衛に、日々の努力を積み重ね継続されておられる陸、海、空の自衛隊及び海上保安庁並びに在沖米軍の皆様が改めて敬意を表します。私達沖縄海友会は、県内に配備された自衛隊について、県民に対する防衛意識の高揚及び自衛隊に対する理解の促進について積極的な支援し、その崇高なる任務遂行が円滑に行われます様、県内各友好団体と協力し支援して参ります。」と述べられました。



「事前清掃作業」(沖縄海友会、那覇航空基地上曹会)



「基地モニター及び防衛モニター行事」

令和5年3月24日(金)、第5航空群において基地モニター会議、令和3年度基地モニター終了式、令和5年度基地モニター及び防衛モニター委嘱式が開催されました。

基地モニター及び防衛モニターとは、基地周辺に在住する一般の方の自衛隊に対する意見や要望等を聴取し、各地域に密着した広報活動を推進するとともに、部隊等における諸施策の改善・向上を図ることが目的とされている制度です。

毎年、基地モニターは5名、防衛モニターは1名の方が委嘱され、それぞれ任期の2年間、第5航空群の活動や行事等に参加していただき、意見が聴取されています(防衛モニターは、



「基地モニター会議」

海上自衛隊だけではなく、沖縄地区の陸、海、空自衛隊に対しても意見、要望を提示していただく制度です。

基地モニター会議では、令和4年度の第5航空群の広報活動実績等について報告が行われたのち、令和3年度及び令和4年度基地モニターの方々から頂いた各種提言に基づき、今後の第5航空群の広報のあり方等について様々な視点から意見交換が行われました。

基地モニター会議終了後は、令和3年度基地モニター終了式に続き、令和5年度基地モニター及び防衛モニターの委嘱式が行われ、基地モニターの方には、第5航空群司令(海将補 高田哲哉)からの委嘱状が、防衛モニターには、防衛事務次官からの委嘱状が手渡されました。

高田群司令は、「我々とは違った視点で、自衛隊の組織や活動に対し、活発にご意見を提示していただくとともに、沖縄における海上自衛隊の認知度の向上や、募集広報についてもご支援及びご協力をお願いします。」と挨拶し、今後の活動への期待を膨らませていました。

委嘱状授与式の後は、基地モニターと第5航空群指揮官等との会食及び懇談が行われ、給養

班員が作った海上自衛隊カレーを堪能していました。

その後、新たに、基地モニター(5名)及び防衛モニター(1名)として活動される方々には、モニター制度の説明や、航空機見学が行われ、海上自衛隊の理解促進のための第1歩が踏み出されました。



「航空機見学」



「モニター委嘱式」

「空団司令官から沖縄県防衛協会に対する感謝状贈呈」

令和5年3月3日(金)、自衛隊協力団体「沖縄県防衛協会」國場幸一会長に対し、航空集団司令官(海将 松本 完)から「沖縄県における防衛基盤育成への貢献、沖縄県民の防衛意識の高揚及び自衛隊に対する理解の促進に尽力された功績」を称え、感謝状及び盾が贈呈されました(第5航空群司令(海将補 高田 哲哉)による伝達)。



「沖縄県防衛協会 会長 國場 幸一氏」

練習艦隊「かしま・はたかぜ」特別公開

令和5年4月1日(土)、練習艦隊(司令官 海将補 今野泰樹)が勝連のホワイトビーチに入港し、練習艦「かしま」・「はたかぜ」による特別公開が行われました。練習艦隊とは、海上自衛隊において海上実習を担当する教育専従部隊で「かしま」「はたかぜ」「しまかぜ」の3隻で編成されています。

練習艦隊では、初級幹部に対し、外洋航海を通じて学校等において修得した知識及び技能を実地に修得させるとともに、慣海性を涵養し幹部自衛官としての必要な資質を育成すること及び諸外国との共同訓練を実施し、各海域等を航行することにより、諸外国の活動状況を理解させ、国際感覚を涵養することを目的に遠洋練習航海を行っています。



今回の入港時には、地元協力団体等による入港歓迎行事が行われた後、募集対象者の学生等に対する特別公開が行われるとともに、翌日には、協力団体や基地モニター等に対する特別公開が行われました。見学をされた方たちは普段見ることのない護衛艦の艦内や装備品に興味津々といった様子であり、乗員に対し海上での生活や職務に関する質問が多数なされました。また、艦内見学においては、艦橋で操舵席や司令官席に座って写真撮影を行う等、貴重な体験ができたこと喜ばれていました。今回の特別公開では、参加された方々に海上自衛隊についてより一層の理解を深めていただけたと感じています。

海上自衛隊 職種紹介

このコーナーでは、海上自衛隊第5航空群において勤務されている隊員及び職種について紹介します。

初めに海上自衛隊は、主として「海」を行動の場としています。周囲を海に囲まれた我が国にとって、海の安全を守ることは非常に重要であり、日夜、日本周辺海域において、警戒・監視活動等に従事し、日本の安全を守っています。また、災害等が発生した際には、艦艇や航空機を派遣し、捜索、救助、救難物資の輸送等を行っています。

今回紹介する職種のほかにも、航空管制員や調理員、通信員など、多数の職種があり、全33職種で約50種目の業務が行われています。

その中から今回は、那覇航空基地隊本部衛生掛で衛生員として勤務している隊員を紹介します。

質問事項

- 1 仕事内容
- 2 将来の目標
- 3 これからの将来を決めていく後輩たちへのメッセージ

衛生員・那覇航空基地隊

本部衛生掛

金城士長



1 『主として救護、医療事務等の実施、診療、その他衛生に関わる業務に従事しています。』

2 『艦艇の衛生員となり、日夜業務にあたる乗員の健康を維持するとともに、自分自身も日々の

任務や訓練を通じ、海上自衛官として成長していきたいです。』

3 『進路を決めるのは簡単なことではありません。実際に私は、専門学校進学等を行ってから、25歳で入隊しました。私のような人もたくさんいます。焦らず、ゆっくり考え、そこで少しでも自衛隊に興味を持ってもらえたら入隊してみるのもいいのではないのでしょうか。』



着任挨拶



第5航空隊前任伍長
海曹長 小宮 正樹

令和5年3月17日付で第5航空隊前任伍長を拝命いたしました小宮です。

前配置は、第5航空隊前任伍長補佐として勤務していました。

また前任伍長として勤務しつつ、主特技である機上武器員としてP-3C哨戒機に搭乗し、東シナ海の警戒監視に従事しています。

前任伍長として、常に「感謝」の気持ちをお忘れず、曹士隊員の先頭に立ち、規律の維持、士気高揚、団結の強化と「組織力の強化」に寄与するとともに、当群隷下部隊前任伍長と協力し地域の皆様からも信頼される部隊であるよう尽力していく所存です。

これからも、ご支援とご厚情を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

着任挨拶



第5整備補給隊前任伍長
海曹長 金城 浩次

令和5年3月17日付、第5整備補給隊前任伍長を拝命しました金城です。

前配置は、第5機側整備隊において航空電子整備員として勤務していました。

那覇航空基地隊前任伍長の與座1曹とは、何か縁がありました。沖縄で小中高と同じ学校に通った同級生であります。

隊が違えど同じ職責を持つ同級生が身近にいるのは、心強いものがあります。

前任伍長は責任が強く求められる仕事ですが、他の隊の前任伍長と協力し合い盛り上げていきたいと思えます。

これからも、ご支援とご厚情を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

着任挨拶



那覇航空基地隊前任伍長
1等海曹 與座 謙作

令和5年1月1日付、那覇航空基地隊前任伍長を拝命いたしました沖縄県南風原町出身の與座です。

前配置は、那覇航空基地隊航空警備隊警備班先任海曹として勤務しており、那覇地区だけではなく勝連地区を含めますと、沖縄における勤務通算23年目となります。私の職種は、地上救難、警備、車両といった多彩な職域であるため、これまで各基地及び艦艇で勤務してきました。定年退職まで残り3年となり、最後の勤務で、那覇航空基地隊先任伍長という大役を任されることになったため、心身ともに引き締まる思いです。

今後は、第5航空群先任伍長及び各隊先任伍長と協力し那覇航空基地が明るく活気のある風通しの良い部隊を目指していく所存でありますので、何卒ご支援とご厚情を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



「那覇航空基地上曹会会長交代しました！」

第5航空隊 海曹長 武克己



上曹会会長 武曹長

広報誌「でいご」をご愛読の皆様、はじめまして。令和5年度那覇航空基地上曹会会長の武曹長です。

まずは、那覇航空基地上曹会についてご説明いたします。

那覇航空基地上曹会とは、那覇航空基地に所在する部隊に勤務する上級海曹（海曹長及び1等海曹の階級の隊員）で構成されている任意団体であり、会員の融和・親睦を図り上級海曹としての地位を向上させるとともに、各種行事やボランティア活動を通じて、中級海曹（2等海曹）以下の隊員に模範を示し、道徳心の涵養に努めることで隊務の運営に寄与することを目的として活動を行っています。

令和5年4月、年度総会で、新会長はじめ新役員が選出されました。

令和5年度は、私が会長を拝命いたしましたので、前会長の北岡1曹の活躍に負けないよう、各種ボランティア活動をはじめ各種行事等へも積極的に参加し、地域の方との交流及び親睦に寄与したいと思っております。

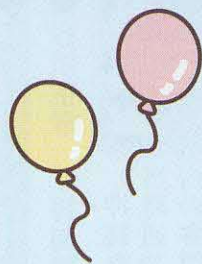
那覇航空基地所在の隊員をはじめ、陸・空自衛隊隊員及び各協力団体の皆様には、前任者同様、引き続きご理解とご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。



上曹会会員による朝の挨拶運動



那覇航空基地自衛官ファミリー



- ⑤ お互いに一言！
(感謝や要望等)
- ④ 同じ基地内で(夫婦、親子、兄弟)勤務しての感想
- ③ 海上自衛隊に入隊した動機
- ② 出身地
- ① 職種(仕事内容)

質問事項

このコーナーでは、海上自衛隊 那覇航空基地内で勤務する「夫婦」「親子」「兄弟・姉妹」にスポットをあて「自衛官ファミリーの絆」を紹介します。
第4回目は、第5整備補給隊で勤務する上温湯親子について紹介します。

父：航空機整備隊 第5整備補給隊 息子：機側整備隊



- ⑤ 【父から息子へ】自衛官になるとは夢にも思わなかつたけど、今では「航空士」になる目標を持ち頑張る息子へ
「元気ですか!!」「元気があれば何でもできる」「息子から父へ」いつもアドバイスありがとつ。歳も歳なので病気・怪我に気を付けて頑張ってください。
- ④ 【父】職種は違いますが、同じ部隊で勤務することはとても刺激を受けます。家族であり上司部下の関係でもあることは難しく感じることもありますが与えられた環境を活かして勤務したいです。
- ③ 【息子】職種は違いますが、同じ部隊で勤務することはとても刺激を受けます。家族であり上司部下の関係でもあることは難しく感じることもありますが与えられた環境を活かして勤務したいです。
- ② 【父】鹿児島県
【息子】鹿児島県(沖縄育ち)
- ① 【父】航空発動機整備員…現在、主にP-13C搭載の発動機(エンジン)・プロペラの整備、修理を行っています。その他にも若年隊員の技量向上や資格取得のための訓練に携わりとともに、服務指導等を行い、後輩の育成に日々励んでいます。
【息子】航空電子整備員…現在は、P-13Cに搭載されているレーダーに関する機器の整備を行っています。上司の指導助言を踏まえ、技量・知識の向上及び体力練成に日々努めています。



うちなんちゅ隊員紹介

第5航空隊 1等海曹 仲宗根 躍夫



沖縄県那覇市出身、当時通っていた那覇市内の専門学校で行われた沖縄地本による説明会への参加をきっかけに海上自衛隊に興味を持ちました。

そして、沖縄で勤務できること、飛行機に多分の興味があつたことから航空学生として海上自衛隊に入隊しました。

入隊後は、山口県及び千葉県で教育航空隊で約4年間の教育を受けた後、第5航空隊に配属され、P-3C哨戒機の航法通信士として勤務しています。

入隊前は知識や体力の面で不安がありましたが、教育体制が整っており、必要な知識、体力を無理なく身に着けることができました。

入隊の動機であった飛行機の操縦も十分な教育のもと、優しい教官方の指導を受けながら安全に実施することができました。

現在は、飛行幹部候補生として、江田島の幹部候補生学校入校に向け、幹部としての素養を身に付けつつ、将来の機長資格取得を目指し飛行術科の向上を図りながら、日々飛行作業等に取り組んでいます。



「飛行前点検」

「持久走競技会」

令和5年1月30日(月)〜2月7日(火)第5航空群では、7日間に渡り持久走競技会が行なわれました。

海上自衛隊では、毎年度、体力練成の一環として、持久走訓練を行ない、その訓練の成果を持久走競技会で競い合っています。

コロナ禍前までは、大勢で一斉にスタートし、白熱した競争が繰り広げられていましたが、コロナ禍以降は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策を徹底した上で出走を複数回に分け実施されています。

今年度も、たくさんの隊員が一斉に走り出す光景はなく、隊員一人ひとりが己との孤独な闘いの中、日々の訓練の成果を出し切って走破していました。



海上自衛隊の日について

「海上自衛隊の日」とは、昭和27年4月26日に海上自衛隊の前身である「海上警備隊」が創設された日をもって「海上自衛隊の歴史と伝統を考える日」として、平成25年に制定されたものです。海上自衛隊では、毎年4月26日に、各部隊等において趣向を凝らした様々なイベント等が行われています。

今年の、4月26日には、第5航空群においても、第5航空群司令の訓話をはじめ群先任伍長による「団結の強化」等を題材としたグループ討議、行進（隊歌）訓練、那覇基地内にある砲台（旧海軍遺跡）研修等が行われました。



二十歳を迎えた隊員に対する激励会

令和5年1月20日(金)、第5航空群では、自衛隊協力団体である沖縄二火会の佐久本会長、後関副会長、沖縄海友会の門馬会長、沖縄県防衛協会の國場会長、沖縄隊友会の平田会長、沖縄自衛隊家族会の古門会長をお迎えし、今年度二十歳を迎えた隊員7名に対し激励会を実施しました。

激励会では、国歌斉唱の後、群司令からの式辞での激励の言葉に続き、各協力団体から隊員に対しては、祝辞と記念品が贈られました。

二十歳を迎えた隊員を代表し、第5整備補給隊の奥野由汰海士長は、「我々が今日という日を迎えることができたのも、家族や職場の先輩、周囲の皆様のお陰であり、感謝の気持ちで一杯です。この感謝の気持ちを忘れずに、これまでに受けたご恩を少しでもお返しできるように、務めるとともに、自分の後輩たちへも還元していきたいと思えます。今後も、一社会人であることをより一層自覚するとともに、日本の平和と安全に寄与できるよう、一自衛官として微力ながらも力を尽くしていきたいと思えます。」と謝辞を述べました。



その後開かれた昼食会では、各々の隊員が二十歳としての抱負を力強く語りつつ、和やかに会食が行われました。



「でいご」に関するご意見、ご感想、寄稿などがございましたら、沖縄二火会事務局または第5航空群広報室までご連絡ください。

■ 沖縄二火会
事務局長 後関 光利
oknikakai@yahoo.co.jp

■ 第5航空群広報室
5aw-ckouhou@inet.msdf.mod.jp
那覇市当間 252
☎ 098-857-1191 (内 5231)

編集協力委員

- | | |
|-------|-------|
| 首席幕僚 | 佐 |
| 広報室長 | 3 佐 |
| 群司令 | 1 尉 |
| 5 空 | 1 曹 |
| 5 整備隊 | 2 尉 |
| 那 空 基 | 3 尉 |
| 広 報 室 | 長 |
| 川 畑 | 1 1 曹 |
| 土 橋 | 1 1 尉 |
| 杉 原 | 1 1 尉 |
| 仲 宗 | 1 2 尉 |
| 上 地 | 3 尉 |
| 高 田 | 長 |
| 今 村 | |

※2023.2.5「沖縄二火会」WEBサイトを公開しました。(https://okinawa-nikakai.com)

※「でいご119号」は令和5年1月から5月までの記事を掲載しています。